テクノスケープ・リノベーションの意味論的研究

Study on Meaning of Technoscape Renovation

岡田 昌彰*

Masaaki OKADA

Abstract : Recently, renovation project of existing structures, such as old architecture, industrial or civil engineering facilities are taken for efficient use of existing facilities with different functions. This current on social facilities may suggest the gradual change of value from flow (scrap and build) to social “stock”. Their purposes of renovation are to acquire economic benefit or efficient preservation of cultural heritages, however, landscape or spatial values or meaning of renovated landscape or space which the structures take on as a result of renovation have yet to be sufficiently discussed.

This study reviews social trend of renovation projects, and introduction of existing aesthetic theory of Mitate and Estrangement permits the manifestation of potential value of landscape and space, such as significance of “distance” caused by semantic difference between present and past use. In this meaning, landscape and space of industrial or civil engineering facilities (i.e. technoscape and technospace), such as watertowers, channel defenses, or abolished railway tracks are concluded to possess high potential to produce estranged value when renovated.

Keywords: *Technoscape, Renovation, Mitate, Landscape, Stock*

キーワード：テクノスケープ、リノベーション、見立て、景観、ストック

1. 研究の背景と目的

既存の建造物に新たな機能を与えて用途転用し、ハードを有効に活用しようという「リノベーション^{補注(1)}」が内外で実施されている。欧米においても歴史的建造物の用途転用が盛んに行われているほか、わが国では1990年代後半より急速に注目を集めはじめ、廃業した銀行や小学校の建築がブティックやレストラン、地域センターなどに転用されるケースが見られる。

リノベーションの意義として「既存施設の再活性化」「文化的ストック蓄積の機会の提供」³⁾「ふるさと資源の積極的活用」⁴⁾などが指摘されているほか、新築に比べ経済的であるケースがある点も近年注目されている⁵⁾。また、建築界においては新たな創造の手法としても注目されている。大江は建築保存手法として(1)守る保存及び(2)攻める保存の2種を挙げ、前者が単なる原型保存であるのに対し後者(リノベーション)を内部プログラムの変更による「再生」手段として位置づけている^{6)補注(2)}。

図-1 新聞記事における「リノベーション」新旧用途 (1998-2005年：朝日新聞・日経新聞)^{補注(3)}

いっぽう、新聞記事などメディアでも多く取り上げられており、各事例がその経緯や意義とともに紹介されている(図-1)。用途転用対象は校舎や倉庫などの建築物から、廃坑やトンネル、鉄道ガード下などの非建築物にまで及んでおり、特に後者は美術館など芸術的空間に多く転用されているのがわかる。そのほか、リノベーション建築そのものの探訪・紹介文献も出版されるなど¹⁾⁴⁾、現在は広く人口に膾炙しつつある概念であると言える。

しかし、用途転用された結果生じる景観・空間の美学的意義など潜在的可能性については十全たる議論は展開されていない。家倉ら⁷⁾は転用された近代建築空間の特質について、訪問者の記述をもとに明らかにするも産業施設や土木構造物など非建築物を対象とした景観・空間の意義については言及するに至っていない。岡田⁸⁾は産業施設のストック的活用策としてリノベーションの意義を提示し、用途転用施設の呈するテクノスケープの意義について言及しているが、その論理的考察には至っていない。

本研究は、再利用されたテクノスケープとその空間に着目し、「見立て」をはじめ既存美学における価値体系を導入することで、景観・空間の潜在的価値を明確化することを目的とする。

本研究では特に、既存用途に対し新たな機能が付与されることにより、用途転用された構造物や建築物が特有の美学的特性を獲得し得る点に着目する。すなわち、大江⁶⁾が指摘しているように、そこには旧用途・新用途といった2種の異なる性格をもつ景観・空間構成要素が共存・対峙することとなる。このように、性格の異なる二元の対峙による景観価値については、既往研究で“景観異化”発現の指摘とともに明らかにされているが⁹⁾、二元対峙のパターンとして表-1のような3種のケースがあるものと考えられる。例えば、自然石と人工的なコンクリート製の台座を対置させることによって「自然—人工」の対峙による美学を創出したMichael Heizerの作品に見られるような「並置」による対峙、旧ガスプラントの周辺を既存のコンテキストとは全く異なる芝生によって覆わせたGasworks Parkに見られるような「包含」の

*近畿大学理工学部社会環境工学科

表－１ 二元対峙の生起形態

二元対峙の形態	例
並置	Michael Heizer Adjacent, Against, Upon 1976
包含	Castworks Park Seattle, USA 1976
重層	Hotel im Wasserturm Köeln, Germany 1991

対峙、および給水塔をホテルに改装した Hotel im Wasserturm のように、二元がオーバーラップして共存することによる「重層」の対峙として整理できる。特に水の貯蔵やガス格納といった元来人間の居住や活動から乖離したシステムによって構成されるテクノスケープ（あるいは、テクノスペース）に建築的・遊戯的用途が事後的に加わることによって、前後のコードの差異は顕著なものとなる。本研究ではまず、日本の古典における「見立て」の美学と服飾デザインにおける転用の美学を整理する。さらにこのような美的特長を顕著に示すリノベーション事例を挙げ、それぞれの形成景観や内部空間を現地調査することにより、二元対峙の創出項目として旧用途の痕跡を抽出し新用途との距離感を議論することによって多義性生成の可能性を検討する。

2. リノベーション空間の美学的意義

（１）日本の古典における「見立て」の美学

「見立て」とは、和歌・俳諧などである物を別のものと仮になぞらえて表現することによる美学創出の手法を意味する。これについて山口昌男は、類似箇所を残しながら形を全て変えることによって創出される「距離感」^{補注(4)}の重要性を指摘している¹⁰⁾。さらに山口は「多義的な面白さを作り出す手法」としての見立ての可能性を指摘し、「異化」^{補注(5)}との概念的類似性を指摘しているほか、青木孝夫¹³⁾は元の文脈と新たな文脈の２視点が反映・交錯・照応することにより「見立ての美学」が成立するとしている。

例えば、山崎宗鑑の連歌「月に柄をさしたらばよき団扇かな」は、「柄を挿された月」と団扇の「丸と線の輪郭」という共通点を残しながら、俗世界と宇宙という大きな距離感の強調により、詩情の創出を実現している例といえる（図－２）。

いっぽう、広重による「即興陰ぼし尽し」は江戸時代の酒宴の席で余興に演ずる遊びの手本として描かれた浮世絵であるが（図－３）、いずれも「石燈籠」「根上がりの松」「鷹に止まり木」といった影絵が雅趣に富む表題とともに表現されている。しかし意外にも、これらの雅趣に富む影絵は背後で余興に興ずる江戸庶民によって身振りで演じられている。ここにも、同一のシルエットを共有しながらも、影絵における想像上の雅趣と、それとは対照的な俗的な酒客の身振りととの間に「距離感」を創出することで、特有の味わいの表現を実現しているものといえる^{補注(6)}。

（２）現代服飾デザインにおける転用の美学

いっぽう、現代の服飾デザインにおいても見立てに共通する手法が見られる。服飾史家・中野香織¹⁵⁾は、コインや紙幣などの対象に「本来の用途にない用い方」を施すことによる瀟洒の演出法

月に柄をさしたらばよき団扇かな

図－２ 俗世界と宇宙の距離感による「見立て」の創出例

図－３ 広重「即興陰ぼし尽し」（江戸時代）
「石燈籠」及び「根上がりの松」

図－４
Christian Dior
ボタンモチーフの
チョーカー（2003）

を指摘している。例えば、Christian Dior が 2003 年に発表したボタンモチーフのチョーカーなどはその典型例と言え、“衣服を打ち合わせてとめる”というボタンの機能を転用によって捨象しその外形のみを純粋な造形要素として取り入れた作品と捉えることができよう（図－４）。

3. テクノスケープ・リノベーションの可能性

次に、産業施設や土木構造物など非建築物や空間のリノベーション事例を挙げ、２種の異なるコードとしての前後用途の重層的共存による空間的特質の生起に着目し、テクノスケープ・リノベーションの可能性として提示することとする。

（１）送水井：相模原市老人福祉センター・浜松園（図－５・６）

神奈川県相模原市の「老人福祉センター浜松園」は、横浜水道の導水勾配上昇による導水能力の向上を目的として整備された「大島送水井」（1934 年竣工）を 1972 年に老人ホームに転用した施設である。1972 年当時はリノベーションの意義に対する議論は盛んではなかったが、送水井廃止によって遊休化していたハードの効率的な活用を意図し転用するに至っている¹⁷⁾。

有蓋建造物であることが新旧用途の共通形態であるが、送水機能によって生じた円形平面形状の上に放射状の壁による部屋割が重層的に施され、部屋の入口から奥に向かって末広がりの扇形平面が現出しており^{補注(7)}、各部屋に敷かれた畳は扇形の中心角に合わせて斜めに切断されている。送水機能と、娯楽、読書、健康相談といった老人福祉関連の諸活動とのイメージの距離感によって特徴的な空間が生成しているといえる。

（２）配水塔：名古屋市演劇練習館（図－７）

配水塔は一般に 20m 前後の高さを有することによって地域のランドマークとしての地元住民の愛着を獲得するケースが少なくない^{補注(8)}。名古屋市西部地区の上水道供給を目的として 1937 年に竣工した旧稲葉地配水塔は、約 30m の高さとともに道路と一体的な空間処理がなされ¹⁸⁾、1989 年の名古屋市都市景観重要建造物指定を経て 1992 年に演劇練習館に転用されている。

この事例においても有蓋建造物であることが新旧用途の共通形態であるが、配水機能により現出した円形平面に重層的に扇形の部屋割や円形の吹き抜け空間が生起しているほか、旧用途を示す配水管が保存展示されている。ここでも、配水機能と演劇活動とのイメージの距離感によって特徴的な空間が生成している。

（３）要塞：和歌山市少年自然の家（図－８）

旧要塞には近年土木学会選奨土木遺産に認定されているものもあり^{補注(9)}、このような近代土木遺産などの機能的空間を用途転用

する事例も近年数多く見られる。和歌山市加太地区の「和歌山市立少年自然の家」は、1906年に竣工し戦後廃止された旧加太田倉崎砲台跡を利用し1974年に整備された。半地下交通路や斜堤、砲座など、相手に発見されることなくかつ相手の位置を死角なく

図-5 左) 相模原市老人福祉センター溪松園 (筆者撮影)
右) 大島送水井¹⁶⁾

図-6 相模原市老人福祉センター溪松園の内部 (筆者撮影)
及び平面図 (同園蔵に筆者加筆)

図-7 名古屋市演劇練習館
(筆者撮影) 及び
平面図 (同館蔵に筆者加筆)

図-8 和歌山市少年自然の家
“家族の広場” (筆者撮影)
及びその平面図 (和歌山市文
化振興課蔵に筆者加筆)

図-9 一之宮公園 (筆者撮影)
及びその平面図 (神奈川県寒川
町都市計画課蔵に筆者加筆)

見定める工夫が施されたいわば国防目的の「眺望一隠れ場の空間」が生起している。現在はこの空間を活用した昆虫観察や肝試し探検などができる「家族の広場」が整備されている^{補注(10)}。

特に肝試し探検には「眺望一隠れ場」的感覚が伴うと考えられ、この性質が新旧両用途の共通形態として位置づけられる。旧国防空間に現代的レクリエーション空間が重層しており、さらに“国防”と“レクリエーション”とのイメージの距離感によって空間の特長が引き出されていると考えられる^{補注(11)}。

(4) 鉄道廃線跡：一之宮公園 (図-9)

近年、社会的注目を集めている鉄道廃線跡^{補注(12)}が、自転車道や遊歩道に転用される事例が見られる。神奈川県寒川町の一之宮公園・緑道は、旧国鉄相模線西寒川支線跡地^{補注(13)}が、旧用途の記憶を地域に留めるべく1986年に緑道公園として整備されたものである²³⁾。園内には100mほどの軌道と「車止め」に転用された車輪が保存され、軌道跡はそのまま緑道として整備されている。

線的空間であることが新旧用途の共通形態であるが、軌道機能によって現出した特徴的な曲率半径^{補注(14)}や旧鉄道施設の展示を伴いながら緑道が重層的に施されている。軌道や車輪の展示により、鉄道空間と遊歩空間とのイメージの距離感がさらに強調され特徴的な空間が生成しているといえる。

(5) 4事例における生成空間の特徴のまとめ (表-2)

いずれの事例においても、残存施設や空間形態などによって旧用途の形態が明快に継承され、そこに新たな用途が重層的に共存している。“見立て”の前提となる新旧用途の「共通点」は、溪松園と演劇練習館においては有蓋構造物として、また非建築物の砲台跡と廃線跡においてはそれぞれ眺望一隠れ場の空間や線の空間形状において実現している。一方、両者の「距離感」は「送配水、鉄道輸送、国防」といった人間超越的な旧機能と、遊戯・遊歩・市民交流といったヒューマンな新用途との間のイメージの距離感のほか、旧機能が明快に反映された空間や旧施設に対するパブリックアクセスの供与が旧用途を強調し、“距離感”の創出を助長しているものと考えられる。

4事例は旧用途のほかスケールや立地条件なども異なるため、より多くの事例精査に加え訪問者の創造イメージを調査・類型化した上で多義性生成を検証する必要があるが、例えば演劇練習館と一之宮公園については既存空間の記憶継承を前提とした景観・空間整備が意図されていることから、立地地域の原風景としての旧施設への愛着が既存の意味として存在するものと考えられる。また、各事例において特徴的空間に展開するアクティビティの多様性など、さまざまな意味の生成が実現していると考えられる。

表－２ ４事例の総括

	旧用途 新用途	旧用途の形態 新用途の形態	新旧用途の 共通形態	新旧用途間の異形態の重層 新旧用途間の“距離感”
1	大島送水井 老人福祉センター 浜松園	円形の平面形状 扇形の部屋割	有蓋 建造物	送水形状（円形）の部屋割 送水機能と福祉活動との イメージ的な距離感
2	稲葉地 配水塔 名古屋市 演劇練習館	円形の平面形状 配水管の展示 扇形の部屋割と 円形の吹抜空間	有蓋 建造物	配水機能（円形）の部屋割 配水機能と演劇活動との イメージ的な距離感
3	加太田倉崎 砲台 和歌山市 少年自然の家	半地下交通路 斜坡・砲座 レクリエーション空間 （肝試し探検場）	眺望一 隠れ場的 空間	旧国防的空間におけるレクリエーション 国防とレクリエーション用途との イメージ的な距離感
4	相模線 西寒川支線 寒川町 一之宮公園	特徴的線形 旧鉄道施設展示 遊歩道公園	線的空間 （道空間）	曲率の大きな旧鉄道敷地の遊歩道空間 鉄道空間と遊歩空間との イメージ的な距離感

4. 結語

本研究は、工業施設や土木構造物のリノベーション景観・空間について、「見立て」の美学の援用によりその可能性を明らかにし、さらに「距離感創出」という観点におけるテクノスケープの有為性を事例とともに潜在的価値として提示した。

現在の近代化遺産活用における議論は主に経済性やまちおこしといった観点を中心に展開されているが、用途転用の結果創出される景観・空間の価値を意図的に引き立たせるような景観計画や創出空間の活用策を検討することが今後の課題となる。

補注

- (1) リノベーション（Renovation）は「刷新」「修繕」「回復」などを意味するが、建築界では「既存の建築を有効に再利用し、増改築することで以前とは別の用途として機能させる再生手法」とされている¹⁾。また、国土交通省都市地域整備局により大都市空間の修復・更新・有効活用を目的として2000年に策定された「東京圏のリノベーション・プログラム」²⁾等に見られるように、この用語には個別の建造物のみならず都市や空間も対象とする概念が含まれるため、構造物の景観あるいは空間全体を対象とする本研究における援用概念にも合致する。従って本論文では、主に建物の異種用途への変更（転換）を意味する「コンバージョン」などの類語に優先させ「リノベーション」を用いることとした。
- (2) 大江は、「攻める保存」において「2つの時感が互いの異質性を認めながら共生する」、すなわち既存 VS 新築の系が重ね合わされることにその特性の1つを見出している。
- (3) 各施設の新旧両用途が明確に言及されている記事を抽出した。
- (4) 鈴木廣之は、二重構造の二者の連絡を確実に保たせる「類似の発見」が存在した上で、両者の距離は「できるだけ相違していたほうが面白い見立て」となる点を指摘している¹¹⁾。
- (5) 異種コードの対立による重層の意味作用によって「曖昧さ」が生じ、それによって「異化」の美学が創出されるとされており¹²⁾、これも重層的な二元対峙の構造として捉えることができる。
- (6) 身振りや影絵の関係について、稲垣¹³⁾は「ポジとネガ」を例示し、身振りの中から平面的なシルエットの正体を知る面白さの発見をその本質の1つとして指摘している。
- (7) 本館地下は行政関連の書庫となっているが、各書棚が円形平面に放射状に配置されており、書棚に施されたラベルを検索する上では効率が良いという¹⁷⁾。
- (8) 例えば東京都の駒沢配水塔、高岡市の水道公園配水塔などがあるほか、ドイツ・マンハイム市、米国・シカゴ市などのように、町のランドマークとなった配水塔を観光資源として利活用する事例も見られる。
- (9) 土木学会選奨土木遺産となった要塞施設として、猿島要塞（2000）、芸予要塞小島砲台跡（2001）、友ヶ島砲台群（2002）がある。

(10) 安全対策は十分に行われており、回遊箇所も限定されている¹⁸⁾。

(11) 国防なる機能がリアリティを希薄化させた現代において、旧用途の認識がきわめて困難となり、国防空間が元来もっていた意味に比してその空間的特徴が強く認識されるという考え方もできる。沿岸域要塞に対する訪問者のこのような空間特性評価については先行研究²⁰⁾で明らかにされている。また、「眺望―隠れ場」が動物行動学的な空間的性質²¹⁾であることは特徴的であり、国防そのものの具体的なイメージ認知と空間特性との関係については今後検討する必要がある。

(12) 例えば、宮脇俊三（1995-2003）：鉄道廃線跡を歩く1～10：JTBキャンブックスなどが刊行されている。

(13) 相模川の砂利輸送を目的として1922年に開通した全長1.9kmの支線で、1984年に廃止となった。

(14) 設計最高速度60-70kmでの最小曲率半径は、一般道で150mであるのに対し、JR在来線では300mとなっている²²⁾。なお、鉄道空間としての特徴には建築限界や縦断線形なども挙げられるが、詳細な分析については今後の発展的研究において議論することとしたい。

参考文献

- 1) 高木伸哉ほかフリックスタジオ（2001）：東京リノベーション：廣済堂
- 2) 現代用語の基礎知識2005，自由国民社
- 3) 五十嵐太郎ほか（2003）：リノベーション・スタディーズ～第三の方法：INAX 出版，p.7
- 4) 自治大臣官房地域政策室監修（1990）：再発見ふるさと資源＆ランドマーク，ぎょうせい：わが国における初期の用途転用事例集と言える。
- 5) 建築家・中谷ノボル氏は新築マンションに比較したリノベーションの経済性を提唱している。（朝日新聞2004年6月8日号）
- 6) 大江匡（1994）：創造行為としての保存・再生：建築設計資料45保存再生，建築資料研究社，95-97
- 7) 家倉敬和・岡田昌彰（2004）：近代建築におけるリノベーション空間の特性に関する研究：日本都市計画学会関西支部講演集2
- 8) 岡田昌彰（2004）：ストックとしてのテクノスケープ：ランドスケープ研究68(1)
- 9) 岡田昌彰・堀繁（2003）：テクノスケープ・レトリック論としての二元対峙景観に関する研究：ランドスケープ研究66(5)
- 10) 山口昌男・高階秀爾（1996）：「見立て」と日本文化：日本の美学24，ペリカン社，4-23
- 11) 鈴木廣之（1996）：類似の発見：日本の美学24，ペリカン社，82-101
- 12) 池上 嘉彦(1984)：記号論への招待：岩波新書
- 13) 青木孝夫（1996）：＜見立て＞の美学：日本の美学24，ペリカン社，36-62
- 14) 稲垣進一（1988）：江戸の遊び絵：東京書籍，154-155
- 15) 中野香織（2005）：転用の美学：モードの方程式，日本経済新聞2005年7月1日号
- 16) 横浜市水道局（1987）：横浜水道百年の歩み
- 17) 浜松園へのヒアリングによる（2003年1月実施）
- 18) 田中良英・岡田昌彰（2005）：名古屋市演劇練習館（旧稲葉地配水塔）の景観・空間特性に関する研究：土木計画学研究・講演集Vol.32
- 19) 自然の家へのヒアリングによる（2005年10月・2006年1月実施）。
- 20) 岡田昌彰（2004）：旧沿岸域要塞における景観・空間の価値評価に関する研究：土木学会海洋開発論文集第20巻
- 21) 例えば、国土交通省都市・地域整備局HP：http://www.ml原因.jp/crd/daisei/tokyo_renovation/（2006年1月現在）
- 22) 森島宗太郎（1977）：鉄道工学：森北出版
- 23) 寒川町都市計画課へのヒアリングによる（2006年1月実施）。
- 24) ジェイ.アブルトン（菅野訳）（2005）：風景の経験：法政大学出版局